

第3回 武蔵野市生涯学習計画（仮称）策定委員会会議要録

日 時	平成21年7月13日（月） 午後7時00分から8時50分	
会 場	自由大学交流センター内	
出席者	委員 (敬称略)	◎林大樹、○倉持伸江、小町友則、白井龍男、飛山堪子、富川昌美、 萱場和裕 (◎委員長、○副委員長)
	事務局	生涯学習スポーツ課長、スポーツ振興・国体開催準備担当副参事、 武蔵野プレイス開設準備室長、武蔵野プレイス開設準備室副参事、 (財)武蔵野スポーツ振興事業団事務局長 ほか
	傍聴者	3名

【会議要録】

1 開会

2 議事

(1) 報告事項

- ・第2回策定委員会での施設見学について、当日参加した委員から、施設を見学した感想や意見の報告があり、前回欠席した委員と問題意識を共有した。
- ・武蔵野プレイスの概要について、担当課である武蔵野プレイス開設準備室が説明し、図書館機能、青少年活動支援、市民活動支援、生涯学習支援と複合機能を持つ施設の考え方や管理運営の手法等について、委員と意見交換を行った。

(2) 協議事項

① 本計画における「生涯学習」の定義について

- ・事務局より、教育基本法等の関連法令や各種答申から示された生涯学習の理念、定義や本計画における生涯学習の領域について説明。

【委員長】 事務局からは、社会教育、学校教育、家庭教育などの教育基本法における生涯教育と民間による教育活動などを含めた「生涯教育（家庭・学校を含めて広く社会で行われる教育）」を計画の領域として考えられると報告いただいた。皆さまのご意見をいただきたい。

【副委員長】 生涯学習の概念は多様で法的にも定まっているものはない。具体的な形を法的に位置づけていないのが特徴でもある。生涯学習の定義は、ある意味、武蔵野市らしさをどのように出していくかにつながる話であり、最近では、ボランティアやNPOの活動、スポーツなども捉えている。武蔵野市は市民活動も盛んと聞いている。地域自由大学も含めてみると個人の生涯学習支援の部分も大切ではないか。

【小町委員】 市民活動やNPOの活動は社会教育の範囲になるのかどうか。

【副委員長】 そもそも分けることに意味がないかもしれない。民間の教育活動に入

る場合もあれば社会教育の範囲に入る場合もあると思う。NPOの活動やボランティアを分けるのは難しい。

【事務局】 ボランティア活動は、社会教育に入るかもしれないが、組織立って行う場合は、民間の教育活動に入るかもしれない。明確な切り分けは難しい。いずれにしても計画の守備範囲として捉えていくことになる。

【委員長】 ご意見をふまえ、本計画における生涯学習の定義については、社会教育、学校教育、家庭教育などの教育基本法における生涯教育と民間による教育活動などを含めた「生涯教育（家庭・学校を含めて広く社会で行われる教育）」を基本としたい。ただし、市の行政計画であることから民間の活動については情報連携といったつながりとなるのかと思う。また、必要に応じて、個人の学習支援を行うことも含めて捉えていくことをこの場で共有しておきたい。

② 市生涯学習施策の現状と課題について

・事務局より、現在、市の生涯学習に関する事業等の実態調査を実施しており、今回は速報版を提出したことを説明。現時点では、331の事業把握ができており、今後、最終的なとりまとめを行っていく。今回は速報であり、分析には至らないが、第1回の委員会で話された「学んだことの社会還元」としては、養成講座や養成研修などを交流や福祉、青少年担当の各課で実施している。同様に自然体験・野外活動では、生物多様性ウォッチング、棚田体験、森林体験教室などを環境、こども施策、緑化、水道、生涯学習担当で実施している。事業の形態としても、座学の講座だけでなく、ワークショップ、展示、冊子の編集、まちづくり、地域交流など様々である。会場は、市の公共施設以外にも市内外の大学、都立公園、公衆浴場など、様々な場を利用している。

【委員長】 市で生涯学習に関連した事業がどれくらいあるのか、もれなく把握するとなると大変な作業だと思う。また、これらの把握した事業をどのように集計分析していくのか。

【事務局】 現時点では331の事業を把握できているが、まだ取りこぼしているものもあり、最終的には400を超えると思われる。今後の集計分析については、庁内ワーキングチームを活用して更に調査を進めていく。

【委員長】 委員の皆さまからは、この事業の実態調査の結果をどのような切り口で分類し、集計分析していくか、着眼点などアイデアをいただきたい。

【富川委員】 把握している事業は、市および財政援助出資団体とあるが、民間の活動などそれ以外のものは、将来的に把握していくのか。

【事務局】 そこまで把握するのは難しい。先ほどの生涯学習の守備範囲のことに関係してくるが、市民が学ぶうえでは、実施主体が市であるか民間であるかはどちらでも構わないという面もあることは認識している。ただし、民間のものも含めて全て調査するとなると、それをとりまとめ一覧をつくることだけが目的化してしまう可能性がある。

- 【富川委員】市民の自主活動について、詳細が分からないにしてもどのくらいあるのか分かるとよいと思う。市に足りない事業なども見えてくる。
- 【委員長】まずは、市が関連している事業をおさえる。次に、民間による生涯学習事業がどれくらいあるのか、量的にとらえることはできないか。
- 【副委員長】個人の生涯学習計画ではなく、市（行政）が支援していくための計画なので、民間についての記述は、共催・連携が限界ではないか。
- 【小町委員】民間の生涯学習も様々なレベルがあると思う。カルチャーセンターだけでなく、NPO活動などもある。
- 【萱場委員】行政計画のなかでどこまで反映できるかという話がある。NPOやボランティア団体については、社会教育団体としては市で把握している。
- 【飛山委員】社会教育団体は、現在、400団体を超過しており、NPO法人になっている団体もある。
- 【小町委員】事業の実態を把握するうえで、事業ごとにボリュームが見えるようにできるとよい。
- 【事務局】毎日行っている事業から、年に1回しか行わない事業まで、通年の事業なのか、単発の事業なのかなど何らかの形でお示ししていきたい。

③ 本計画における生涯学習施策の体系化について

- ・事務局より、「武蔵野市生涯学習計画（仮称）体系図イメージ」を説明。「学びを育む基礎づくり」「多彩に学ぶ機会の充実」「市民の主体的な学びの展開」「学びの成果の共有、生きがいがづくり」「持続可能な生涯学習社会の推進」など大きく5つの項目に分けた体系図のイメージを整理した。

- 【委員長】今後のスケジュールを確認したい。中間まとめのパブリックコメントはいつ頃行うのか。
- 【事務局】10月の策定委員会までに中間まとめを確認したい。
- 【委員長】中間まとめのパブリックコメントまでには、理念、体系図などをまとめなくてはならない。それまで策定委員会は、9月、10月の2回だけなのであまり時間が無い。
- 【小町委員】この体系図イメージは、自然関係やボランティア関係などのテーマで分けずに、目的とそれを通して何ができるのかという切り口でまとめられている点がよいと思う。本日配布資料の別紙「ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス 管理運営指針」の6ページにある“気づく”“知る”などの目的でマップになっているとさらに分かりやすい。
- 【副委員長】切り口を目的ごとに出すのは、市民にとっては分かりやすいと思うが、さらに、計画としての方向性を打ち出していくことになり、理念を検討していくなかで細部も含めて検討していく際に大変な作業になると思う。具体的には、この体系図に事業を入れ込んでいく形になると思う。先ほどの事業の実態調査シートでみると、事業の内容によっては、体系図を大きく分けた5つの項目のどこにあてはまるのか整理する際

に迷うものも出てくると思う。事業や施策のレベルから検討していくことも大切である。事業の実態調査結果もふまえて、もう少しどのような方向を目指していくのか精査は必要だと思う。また、今回の生涯学習計画のベースとなる上位計画とのつながりも大切であり、関連性を持たせていく必要があると思う。

【事務局】 市の上位計画としては、第4期長期計画調整計画がある。生涯学習計画に関する記述では、「これまで多様に実施・展開されてきた各種の生涯学習事業や市民による主体的な活動について、市民のニーズに照らして事業の再構築を行い、市民の主体的な学習活動への支援も含めた施策の充実を図る。」とあり、事業の体系化、計画化も重要だ。

【委員長】 他に何かご意見があればお願いしたい。

【富川委員】 体系図については、もう少し自分としても考えたい。また、今回の生涯学習計画と、既に動いている事業計画とをどのように調整していくのかは今後の大事な視点だと思う。

【小町委員】 施設を維持するための事業ではなく、生涯学習を継続するための施設であり事業であるという認識が大切だと思う。

【飛山委員】 今後、この計画で目指すべきところをしっかりと考えていきたい。

【白井委員】 体系図イメージは、非常に見やすいと思う。この後にジャンル分けを含めて事業を載せていくことができれば、使う側も使いやすいものになる。

【萱場委員】 この体系図に事業を貼り付けた場合、ひとつの事業が複数の分野に貼り付くような懸念はある。また、平成20年の中央教育審議会の答申にある社会への還元をどのように組み込むのか、国では、生涯学習は、本来、自発的な学習であるとしているが、社会に還元していくことを強調している。市としてどういう考え方で行くのか、国と同じ様な方向で行くのか、この計画の一つの大きな分かれ目だと思う。

【委員長】 体系図イメージについて、よくできているようにも思うが、今後、たくさんある事業の実態を把握し、整理したうえで体系図としてまとめていただきたい。次回の策定委員会は9月になる。

【富川委員】 メールでも意見を出し合うなどやりとりをしながら進められるとよい。

3 その他

- ・日程について、以下を確認した。

第4回 9月7日(月)午後7時 本町コミュニティセンター

第5回 10月23日(金)午後7時 武蔵野公会堂

- ・その他、社会教育委員との意見交換会が8月14日(金)午後7時から武蔵境のリングビル10階で開催されることを確認した。

4 閉会